平成二四年三月八日（木）午前

衆議院財務金融委員会

速記録（議事速報）

○海江田委員長　次に、豊田潤多郎君。

○豊田委員　新党きづなの豊田潤多郎でございます。

私も五分しか持ち時間がありませんので、きょうは事実関係を確認ということで、もし時間が余ればもう少し突っ込んだ議論をしたいと思います。

通告はしてありますが、交付国債の過去の発行実績について、次の五点について答えていただきたい。そして、その五点は最初の三点が一くくり、あとの二点が一くくりということになろうかと思いますが、まず第一点は、実績があるとすれば、年月で結構です、もちろん戦後で結構です、いつ発行したのか。二番目に、発行額はどれぐらいだったのか。三番目に、何のために、どういう目的でそれが発行されたのか、これが三点。それから四番目、交付国債の現金化の請求はいつ行われ、どれぐらいの金額が現金化請求があったのか。それから五番目、交付国債の現金化の財源はどこからそれを持ってきたのか。この五点についてお答えください。

○海江田委員長　五十嵐財務副大臣。

全体で五分ですので、短くお願いします。

○五十嵐副大臣　それはちょっと難しい。

交付国債の過去の例でございますが、戦没者の遺族に対するものはこれまで、昭和二十七年度から随時行われてきております。それから……（豊田委員「金額は」と呼ぶ）金額は、二十二年度末発行総額は三兆九千二百五十六億円でございます。二十二年度末の発行残高は三千六百七十三億円です。それから、ＩＭＦ、世銀等の国際機関に対するものは昭和二十七年度からやはり随時行われてきまして、これまでの発行総額は十兆六千二百二十六億円、二十二年度末の発行残高は一兆六千二百三十億円でございます。次に、預金保険機構に対するものは平成十年二月と平成十二年七月で、平成十年が十兆円、平成十二年が六兆円でございます。日本政策投資銀行に対するものは、平成二十一年七月十日に一兆三千五百億円でございます。それから、原子力損害賠償支援機構に対するものは、二十三年十一月と十二月にそれぞれ二兆円、三兆円ということになっております。

○豊田委員　四番目と五番目の質問に対してはどうでしょうか。

○海江田委員長　いいですか。現金化と現金化の財源です。

○五十嵐副大臣　原発については、それは東電に求償をする、あとは、残りは一般会計からということでございます。

○豊田委員　ほかはどうなんでしょうか。原発とか遺族、ＩＭＦ、預金、いろいろ、大体五項目おっしゃいましたね。全部一般会計ですか。

○五十嵐副大臣　一般会計でございます。

○豊田委員　あと一分しかないので、後でまたこれは詰めていきたいと思っていますが、今回の年金の二兆六千の交付国債の発行の仕方というのは、過去の実績、その目的等と照らし合わせてみると、ちょっと異質というか、おかしいんではないかということが感じられます。そして、なぜか堂々と議論を政府はされていますが、では、どうして去年まで交付国債で手当てをしなかったのか、なぜことしになって突然それが出てきたのか。

これは、やはり財源がないからということでしょう。窮余の一策でしょう。しかも、それはある意味では粉飾まがい、企業会計でいえば粉飾まがいに近いようなものだと私は思いますが、そのことは今後随時詰めていくとして、一言、大臣からお願いします。

○安住国務大臣　特にありません。

○海江田委員長　豊田潤多郎君、もう申し合わせの時間が来ておりますので。

○豊田委員　わかりました。

特にありませんという答弁はちょっと意外でしたけれども、今後、詰めていきたいと思います。よろしくお願いします。

以上です。